

米利上げとECB追加緩和が 秒読みに、為替相場はどうなる？

今 月のドル円相場は、米国の12月利上げ観測の高まりによって円安ドル高が進行、足元では122円台後半にある。

今後は12月半ばに予定されるFOMCでの利上げの有無が最大の焦点となるが、12月上旬の雇用統計がよほど悪い結果とならない限り、利上げが実施されそう。現在、米先物市場が織り込む12月の利上げ確率は7割強と、まだ上昇余地がある。12月半ばにかけて、利上げの織り込みが進み、さらにドル高が進むと見ている。ただし、利上げが決定される場合、同時に「利上げはごく緩やかに進める」との強いメッセージが発信される可能性が高い。次回の利上げが見えてくるまで、ドル高圧力はとりあえず一服しそう。この段階でカギとなるのは日銀の動きだ。筆者は1月末の追加緩和を予想しているが、来年早期の追加緩和が市場で織り込まれれば、ドル高から円安へのシフトが起こり、円高への揺り戻しが回避されるだろう。このシナリオに基づき、3ヵ月後の水準は現状比で円安ドル高と予想している。

ユーロ円相場は、ECBによる12月追加緩和観測によって、ユーロ安が進み、足元は130円台前半で推移。今後は12月のECB追加緩和に向けてもう一段ユーロ安が進む余地があるが、既にかなり織り込まれていること、ECBの次は日銀の追加緩和が期待されることから、ユーロ安は続かないと見ている。

長期金利は0.3%台前半での推移が続いている。米長期金利は最近やや上昇しているが、影響は殆ど見られない。日銀の国債買入れによってもともと債券需給が逼迫しているうえ、ドル調達コストの上昇に伴う海外勢による本邦国債需要が金利上昇を妨げている。しばらくこの構造に変化はなく、長期金利の低迷が続くそう。

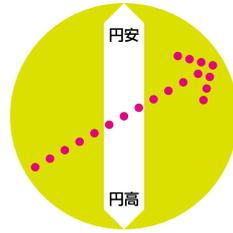


シニアエコノミスト **上野 剛志**
うへの つよし | tueno@nli-research.co.jp

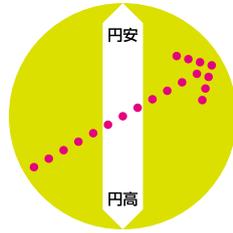
98年日本生命保険相互会社入社、
01年同融資部門財務審査部配属、
07年日本経済研究センターへ派遣、
08年米シンクタンクThe Conference Boardへ派遣、
09年ニッセイ基礎研究所(現職)。



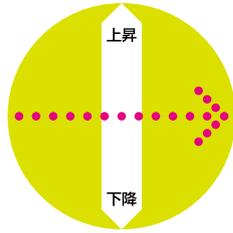
Market Karte December 2015



ドル円・3ヵ月後の見通し



ユーロ円・3ヵ月後の見通し



長期金利・3ヵ月後の見通し

ドル円為替レートの推移 [直近1年] 資料:日本銀行



ユーロ円為替レートの推移 [直近1年] 資料:ECB



長期金利(10年国債利回り)の推移 [直近1年] 資料:日本証券業協会

